

## 新潟医療福祉大学トレーナー部所属学生によるスポーツイベントのサポート活動報告

柵木聖也<sup>1)</sup>、橋本康士<sup>2)</sup>、伊藤渉<sup>1)</sup>、江玉睦明<sup>1)</sup>、熊崎昌<sup>1)</sup>、菊元孝則<sup>1)</sup>、中村絵美<sup>1)</sup>、中村雅俊<sup>1)</sup>、平林怜<sup>1)</sup>、大森豪<sup>1)</sup>

- 1) 新潟医療福祉大学アスリートサポート研究センター
- 2) 一般社団法人 佐渡市スポーツ協会

【背景・目的】新潟医療福祉大学では2011年に健康スポーツ学科所属学生有志によって「トレーナー部」が組織され、学内の強化指定部所属の学生アスリートに対するサポート活動を行ってきた。また近年では、学外の各種スポーツイベントにてブースを設置し、参加者に対するコンディショニングサービス(以下、C/S)を実施している。本年度のC/S実施対象イベントは、①第31回笹川流れマラソン大会、②ANA/PWA Windsurfing World Cup Japan 2017、③2017 スポニチ佐渡ロングライド210、④2017 佐渡国際トライアスロン大会、⑤信越五岳トレイルランニングレース2017、以上五イベントである。本研究ではこれらのうち、2017年5月20日に開催された2017 スポニチ佐渡ロングライド210でのC/Sの状況について報告する。

### 【方法】

#### 1) 大会の概要

本大会は競輪補助事業の一環として新潟県佐渡市で開催された自転車のロードレースイベントであり、走破するコースの距離によってA~Dの四コースに分類された。本年度の総エントリー数は3,790名であった。新潟医療福祉大学トレーナー部(以下、トレーナー部)は、最長の210kmのAコース参加者のサポートにあたった。Aコースには2,068名がエントリーし、85.1%の1,760名が完走した。

#### 2) 活動の概要

本大会のサポート活動に参加したトレーナー部所属学生は9名(男子8名、女子1名)であり、1名の顧問教員が引率と現地での指導に当たった。大会当日は午前4時よりスタートエリアにて交通整理ボランティア等を行い、午前5:30の選手スタート後、162km地点の小木エイドステーション(以下、AS)へ移動してコンディショニングブース(以下、C/B)を設置しC/Sを実施した。小木ASはAコース全体で7か所設置されたA/Sの6番目にあたり、食料および飲料を提供するテントがコース脇に設置され、その後方にC/Bテントが設置された。C/Sを希望する参加者は受付デスクにて受付後、トレーナー部所属の学生によるC/Sを受けた。受付デスクではC/S希望者の性別、年代およびコンディショニング希望部位を聴取し、後刻集計した。

【結果】大会当日の気象状況は、天候晴れ、最低気温16.9℃、最高気温25.6℃、湿度46%、北西の風2m/sであった。

#### 1) 総利用者数と性別および年代分布

総利用者数は132名で、Aコース参加者の6.4%であった。男性の利用者は123名(93.2%)、女性の利用者は9名(6.8%)であった。

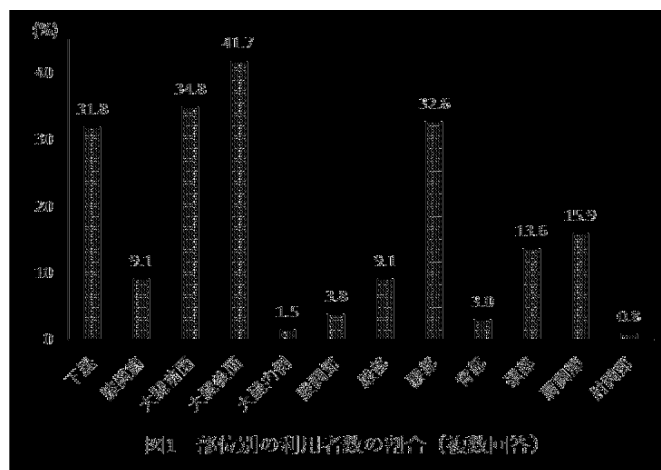
年代別の利用者数は、10歳代0名、20歳代14名(10.6%)、30歳代33名(25.0%)、40歳代40名(30.3%)、50歳代34名(25.8%)、60歳代11名(8.3%)であった。

#### 2) C/Sの希望内容

利用者が希望したC/Sは、全てパートナーストレッチング(トレーナーによる他動的ストレッチング)であった。

#### 3) C/Sの施行部位

C/Sの施行部位を図1に示す。



C/Sの施行部位は大腿後面が最も多く、次いで大腿前面、腰部、下腿の順となった。

【考察】小木A/SにおけるC/S利用者の男女比および年齢分布は、トレーナー部がサポート対象としたAコースの全参加者のそれとほぼ一致したものであった。C/Sの施行部位は下肢および腰部に多かったが、これは長時間に及ぶ前傾姿勢でのペダリング動作による負荷が下肢や腰部の筋群および関節に集中したことによるものと考えられた。活動に参加した学生からは、「選手の心と身体のケア両方の重要性が感じられた(3年生男子)」「筋肉の起始停止や作用や拮抗筋など解剖学の知識が必要だと感じた(3年生女子)」「つかの間の休息をよりよいリカバリー時間に変えられたということは、私たち学生にとっても喜ばしいことであった(4年生男子)」「選手がイベントに気持ちよく臨んでもらうためにはどんな行動をしたらよいか自分の立場を考えながら主体的に動くことができた(4年生男子、トレーナー部代表)」など、positiveな感想が多く寄せられ、教育的効果が高かったことがうかがわれた。

【結論】自転車のロードレースイベントにおいてC/Bを設置し、新潟医療福祉大学トレーナー部に所属する学生がC/Sにあたった。コンディショニング施行部位は下肢および腰部に多く、スポーツイベントでのC/S活動による参加学生に対する教育的効果が高いことがうかがわれた。